

7月の月一レターです。

7月19日付新聞の時事コラムに、サナダムシの駆除薬が新型コロナウイルスに効くかもしれないという発表があったと出ていました。それはなんと、あの計算能力世界一の座についたばかりのスパコン「富岳」が導き出したということです。日本では戦後しばらく、排出物から口に入る循環で寄生虫が体内に寄生する時期があり、「虫下し」と呼ばれた薬と衛生環境の改善と共に久しく寄生虫そのものの存在を耳にしなくなりました。コラムの筆者が訪れた目黒寄生虫館の「8.8mサナダムシ標本」の宿主の男性が宿主の間、腹痛も不快感もなく、全くの無症状だったようです。

そういえばコロナウイルスも 口から感染、無症状者も・・・！

昨今の陽性者の増加を考えるとついつい希望をもってしまいます。

あらゆる角度から、「富岳様」どうかその先もお導きください。

稲とツユクサ



<みんなねっと情報>



みんなねっと新役員体制決定



6月26日(金曜日)東京都障害者福社会館にて2020年度総会が開催されました。

任期満了に伴う役員改選が行われ新役員が選出され、新理事長に岡田久実子さん(前副理事長)が就任しました。なお、本條義和前理事長は相談役に就任となりました。

【新役員】 *は重任

理事長:* 岡田久実子(埼玉)、 副理事長:木全 義治(愛知)、横山 朋子(広島)、

理事:下屋敷正樹(岩手)、* 眞壁 博美(東京)、* 吉邑 玲子(群馬)、青山 正二(富山)、赤池 千明

(静岡)、尾畑 聡英(滋賀)、大岩 金司(愛媛)、檜橋 恭一(福岡)、* 奥田 和男(奈良)、* 青木 聖久

(愛知)日本福祉大学、夏苺 郁子(静岡)精神科医、前田 直(東京)精神に障害がある人の配偶者・パー

トナーの支援を考える会、坂本 拓(神奈川)こどもびあ

監事:* 松澤 勝(東京)、杉本富太郎(静岡)、 相談役:本條 義和(兵庫)



みんなねっとの精神障害者差別に関する調査報告が福祉新聞で紹介



みんなねっとの精神障害者差別に関する調査報告が福祉新聞(7月6日付)で紹介されました。

・精神障害者の家族の3割「差別を受けた」医療機関の受診拒否も

精神障害者の家族の3割が差別や偏見によって理不尽な思いをしたことが、このほど全国規模の調査で分かった。

・精神障害者のいることを周囲にオープンにするために必要な社会整備としては、半数が「義務教育課程で精神障害の理解を促す授業を増やす」を挙げた。(中略)

・調査結果について

国立精神・神経医療研究センターの山口創生氏は「精神障害者の家族が受けたスティグマ(烙印)をテーマとした論文は日本では少ない。これだけ規模の大きな調査は貴重だ。差別経験が3割だった点は私の予想より少ない」とみている。